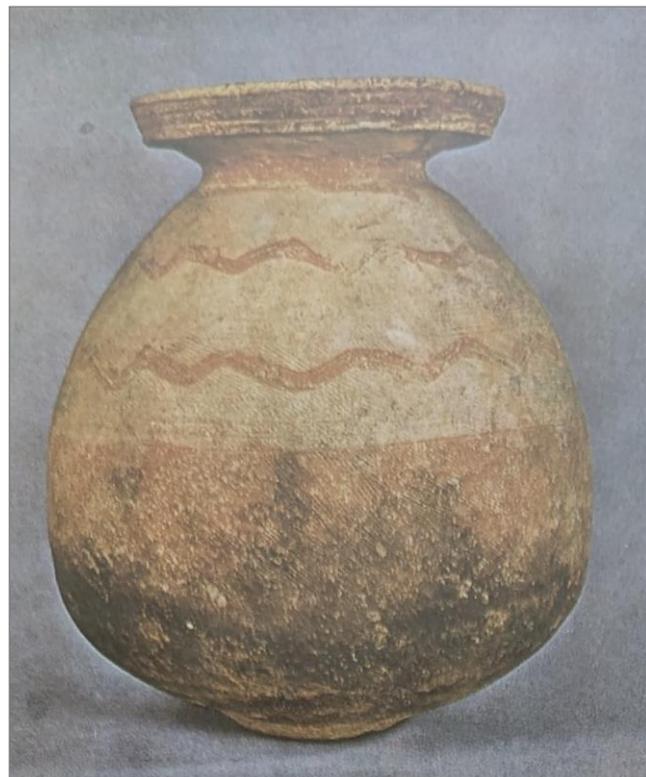
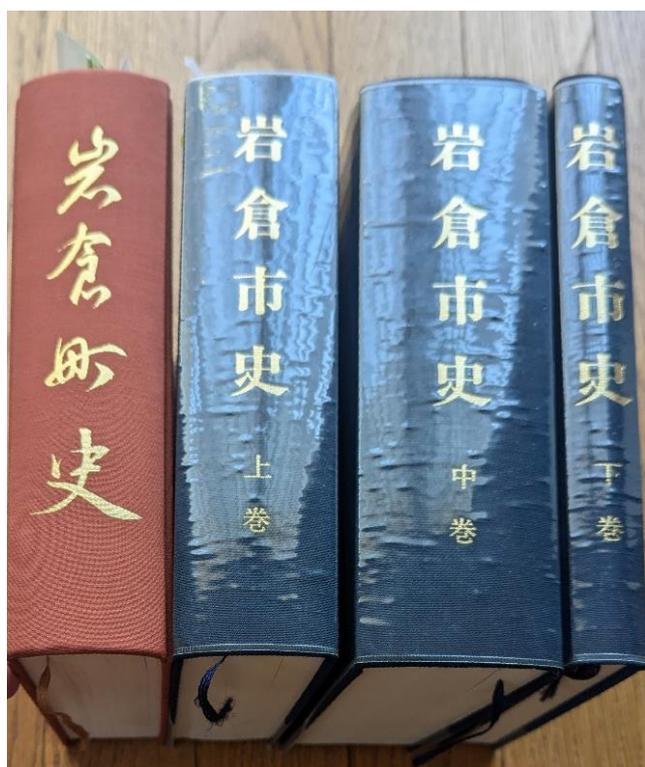


令和7年6月定例会
 一般質問補足資料
 10番 井上真砂美

資料 岩倉のまちづくり 岩倉町史、岩倉市史、岩倉小学校中学年副読本

(1)時代の求めにより変化してきている



(2)岩倉について学ぶ「副読本」の変化

昭和40年4月29日発行

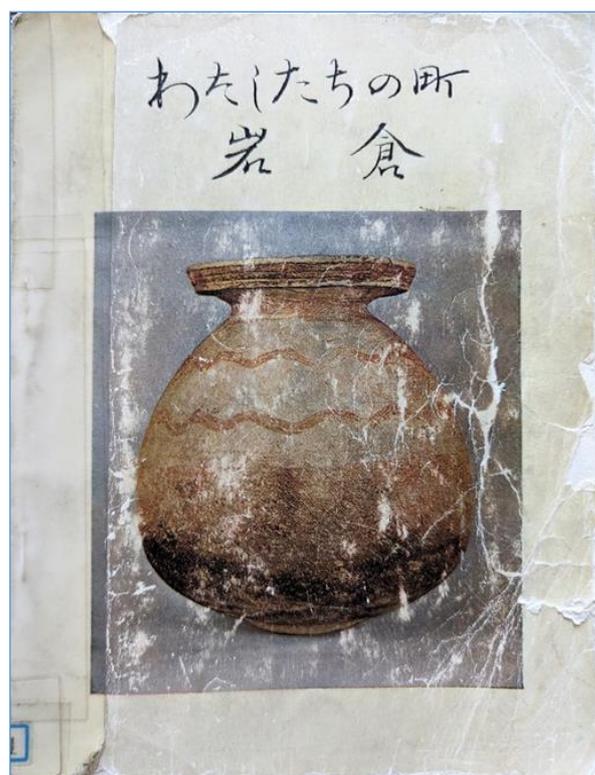
編纂者 岩倉町教育委員会

表紙 宮廷式土器

昭和11年石仏西広畑出土

世界美術全集に掲載

京都大学文学部博物館蔵



「わたしたちの町岩倉」

発刊のあいさつ

わたしたちの町岩倉に、人間がはじめて住みついたのは、遠いいにしへの縄文時代からのことといわれ、弥生時代からは米を作ってまいりました。こんにちのいわくらができあがるためには、ここに住みついてきた人たちの、たゆまない精進のたまものにはほかなりません。わたしたちは、わたしたち自身のしあわせのために最善をつくし、わたしたちの町岩倉の建設のために情熱をささげなければなりません。次にくるわたしたちの子孫のための大きな責任でもあります。よりよい町づくりは、こんにちの岩倉がどのようにしてできあがったかという、町の歴史を正しくつかむことから出発しなければなりません。(略)

昭和 40 年 4 月 29 日天皇誕生日 岩倉町教育長

あとがき

岩倉にも郷土読本をとの望みは、ずいぶん前からありましたが、いよいよときがまいりまして、岩倉町教育委員会の委嘱により、郷土読本編集委員会が発足しましたのが昭和 38 年 8 月 1 日のことでした。そのときは、昭和 30 年刊行の“岩倉町史”がありますので、それをもととし、町史で足りなかった部分と町史発刊以降のできごとをおぎない、小学校高学年ならびに中学校に学ぶひとびと、さらには、在町一般のかたがたに、こんにちの岩倉が、どのようにしてできてきたかといった町の歴史のあらましを、できるかぎり正しく理解してもらえるような読みものにまとめあげたいという編集方針をきめ、委員一同努力を続けました。(略)

わたしたちの本当のしあわせをかりとるためには、どのように発展させていくべきかという道をみいだすために、役立てていただきたい。 編集委員長



「一宮市博物館 1988.3 博物館だより」より抜粋
 「パレススタイルの美」.壺 岩倉市石仏西広畑遺跡出土
 高さ 31.5cm 京都大学文学部博物館蔵

今から約 1,900 年前(弥生時代後期)から古墳時代初頭にかけて、繊細な紋様が施され、丹(に)が塗られた紅く美しいパレススタイル土器がつけられました。市内の多くの遺跡からもこうしたパレススタイルの土器が出土しており、一宮市を中心とする尾張平野に集中的に分布するこのパレススタイル土器の変遷をたどりながら、その用途、丹塗りの意味を探るとともに、その美しさ、華麗さ、繊細さを鑑賞する場として開催するものです。(中略)

京都大学の教授により「エーゲ海クレタ島出土のパレススタイルの土器に勝るとも劣らないくらい美しい、日本のパレススタイルの土器だ」として命名されたものです。昭和 28 年に刊行された平凡社の「世界美術全集 1 巻」において「弥生式土器中の宮廷様式だと讚えたのは、こういう壺形土器であった」と紹介されパレススタイル土器の名称が確立された。

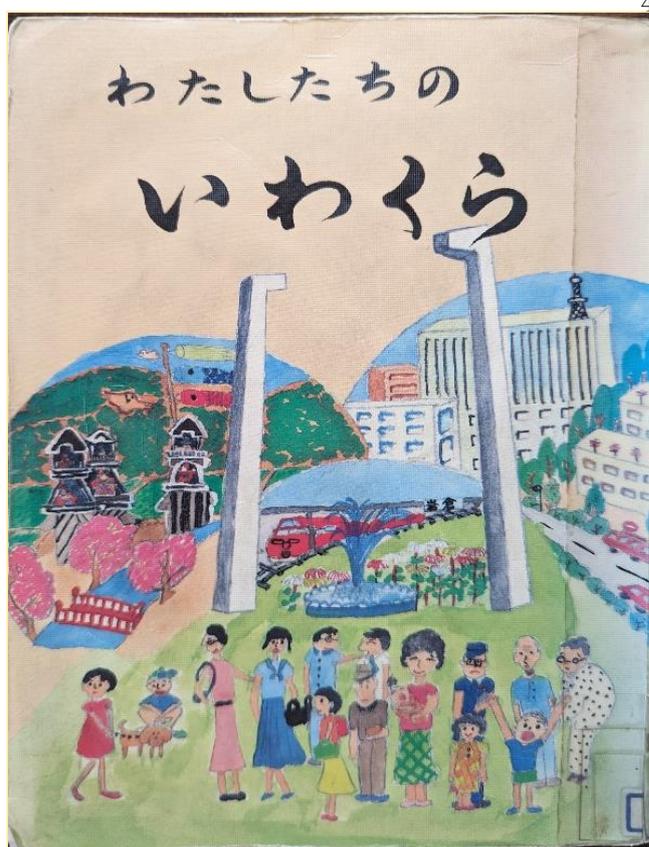
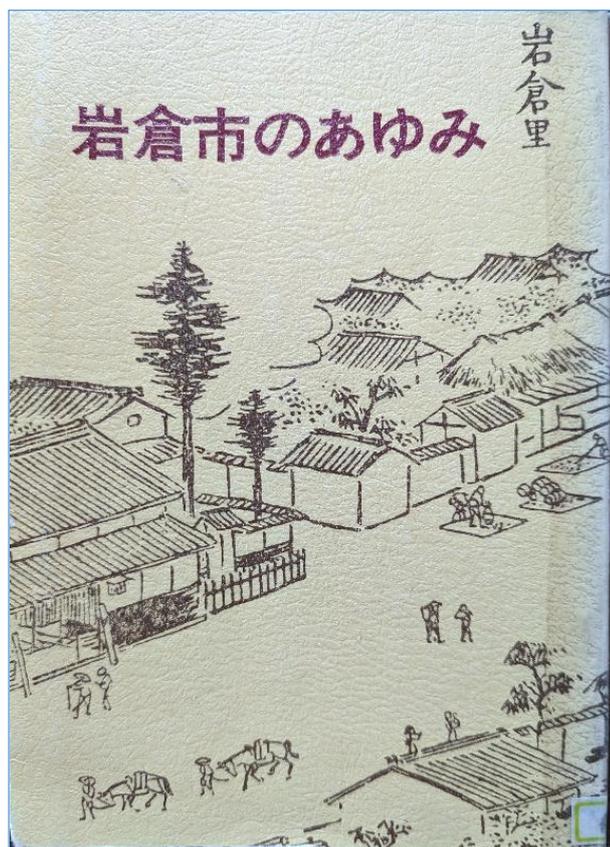
史跡・遺物で見る石仏

「宮廷式土器」(昭和 11 年秋、石仏字広畑で出土)

この壺は、淡彩壺(たんさいつぼ)と呼ばれ、弥生時代のものと思われる。

ジグザグに刻まれた線の上を筆太に塗られ、口縁部(こうえんぶ)の内面及び下部にも彩色があり、形も色彩もみるからに豊かな感じがする。(中略)

弥生時代の優れた製作技術を持った人々がこの地域で集団で農耕していたことが推測される。現在京都大学博物館に展示保存されている。



岩倉市のあゆみ

昭和 48 年 5 月 20 日 発行
 編集 岩倉市郷土読本研究委員会
 発行 岩倉市教育委員会
 表紙 百数十年前のいわくら村
 (尾張名所図会による)

わたしたちのいわくら

昭和 55 年 4 月 1 日 (初版)
 編集 社会科副読本編集委員会
 発行 岩倉市郷土研究会
 表紙絵 児童

わたしたちのまち いわくら

昭和 55 年 4 月 1 日 (初版)
 令和 6 年 4 月 1 日 (14 訂版)
 編集 小学校社会科副読本編集委員会
 発行 岩倉市教育委員会
 表紙絵 岩倉五条川のんびり洗い
 & い〜わくん